

## HOPE



## 病院機能評価認定のお知らせ

市立芦屋病院 病院長 金山 良男



今年の8月6日、市立芦屋病院は日本病院機能評価機構の定める最新版(ver6)の認定施設になりました。前回認定時(平成15年)から時間が経過し病院内外の状況も大きく変わった中での再認定でしたが、病院のあり方についての徹底した議論を踏まえ新しい体制でスタートした病院の方向性が、公的機関からも認めていただいたということになります。市民の皆様には、芦屋病院が「信頼され選ばれる病院」であることが公認されたことと報告できますと共に、病院の改革に力を貸していただき

応援していただいた皆様に深く感謝申し上げます。日夜を問わず医療の現場を支えているスタッフにとっても、この認定は大きな励みであり今後の一層の精進の糧となると思います。

全国に約9千あるとされる病院の中で、前回認定時(ver3)には約1,000病院、今回(ver6)は約2,500病院が認定されており、病院機能評価は病院の実力を測る基準として定着しています。それだけに審査対象病院にとっては大きなプレッシャーともなりますが、芦屋病院は前回の経験もあり、今回の受審に当たっても特別な支出や人員配置を組むことなく、合計700項目以上にわたる書類審査項目の資料作成と、それらの現場確認を目的とした訪問審査に臨みました。とはいえ、審査のために要求される資料、チェックを受けるべき台帳類・関係書類などは合計すると一部屋を埋め尽くすほどになり、それらをすべて点検し見直す作業は少なからずの労力を伴うものではありませんでしたが、それはとりもなおさず病院で行われている日常業務の膨大さを改めて実感するところであり、見直しから次への改善に向かうことこそが機能評価受審の目標でもありました。

認定に際しての見直しの中で診療体制に若干の改善策を整えましたのでご紹介します。ひとつは、診療録(カルテ)の記載を大きく変更しました。これまでは医師、看護師、その他の職種ごとに別々に記載されていたのを、職種に関わらず一括記載する方式に改めました。これによりスタッフ間の情報交換が容易になり、チーム医療の実践にも役立つこととなります。現場には多少の抵抗感はありましたが、この機会に断行したところ、審査に際して審査員(サーベイヤー)の先生からも高く評価されました。もうひとつは、以前から懸案となっていた患者さんの認識のための腕バンドの導入です。バンドのバーコードにより、患者さんの誤認防止、処置や注射などの際の照合が確実にできることとなります。実は、現時点での病院システムでは診療行為に関する全ての確認作業をバーコードに集約できるだけの機能がなくやや中途半端なのですが、これも新病棟完成時にはシステムとして完成させる予定です。

とはいえ、評価認定は一つの通過点に過ぎません。今回高く評価をいただいた部分はさらに伸ばし、評価の低かった部分は一層の改善を図り、現在建築が進んでいる新病棟が設備面でも機能面でも最先端の病院としての役割を発揮できるよう尽力する所存です。

病院を支える『コメディカル』をご存知ですか?コメディカルとは医師の指示の下に業務を行う医療従事者を言い、具体的には薬剤師や検査技師などがそれにあたります。今回は薬剤科とリハビリテーション科についてご紹介したいと思います。



## 薬剤科のお仕事



病院薬剤師の仕事の1つに注射薬の調製があります。今回は高カロリー輸液と抗がん剤の調製についてご紹介します。

最初に高カロリー輸液について説明します。栄養状態の悪い患者さんや、長期間食事が取れない患者さんには高濃度の栄養補給液が必要です。1日に必要なエネルギー源となるブドウ糖やアミノ酸などが入っていて、心臓に近い太い血管の大静脈からゆっくりと投与します。最近ではTPN (Total Parenteral Nutrition、中心静脈栄養)とも言われています。

高カロリー輸液には、1日のカロリーとともに必要なビタミン、微量元素、その他の薬剤が混合されます。高カロリー輸液の調製は薬剤科で行います。クリーンベンチと呼ばれる無菌的な装置内で調製することによって、患者さんの感染症やその他の合併症の予防に努めています。



次に抗がん剤です。がんは手術可能な場合は取り除きます。手術が不可能な場合や血液のがん(白血病、悪性リンパ腫など)は、抗がん剤治療や放射線治療が行われます。最近では、手術後の補助療法(大腸癌など)として抗がん剤治療を行う場合が多いようです。抗がん剤は注射薬と内服薬があります。がん細胞を退治する薬ですが、注射薬の場合は原液のまま使うのではなく輸液に薄めてから注射します。薬剤科では、抗がん剤の投与スケジュールや投与量をチェックした後、注射の調製を行います。抗がん剤は正常な細胞もやっつけてしまうほど細胞毒性が高い薬です。抗がん剤の調製は特に慎重に行い、被爆しないようにガウン、手袋、マスク、キャップを着用して、安全キャビネットというクリーン装置内で無菌的に調製します。

このように高カロリー輸液や抗がん剤の調製は迅速、正確に行い、薬剤の品質確保(配合変化や安定性)に配慮しながら調製しています。入院及び外来患者さん全ての注射薬の調製を毎日薬剤師2名がコンビを組み無菌的に調製し、鑑査をすることで感染症や過誤防止に努めています。



## リハビリテーション科紹介

現在、急速な高齢化に伴い社会的に高齢者を支えていこうという気運が高まってきています。社会全体で高齢者を支えるという枠組みが作られ、医療と福祉の役割が明確化されつつあります。その一つとして「リハビリテーション(以下リハビリ)」が挙げられます。リハビリというと難しい印象をもたれるかもしれませんが、基本は毎日の生活そのものです。たとえば身の回りの動作はさまざまな動きの組み合わせからなります。これをしっかり行うことがリハビリと考えます。



当院のリハビリ科は、理学療法士・言語聴覚士の2職種体制、計4名で行っております。理学療法士は日常生活動作が困難な症状に対して必要とする筋肉や関節運動をアドバイス、練習し、言語聴覚士は、コミュニケーション障害(失語症・高次脳機能障害・運動性構音障害・音声障害)や、飲み込んだりする障害(摂食・嚥下障害)を呈する患者さんの評価・訓練を行っています。

当科は、多くの方の声を生かし、他スタッフ・他施設と連携し急性期から在宅に至るまで一貫したリハビリを実践するよう心がけています。

これからも社会全体の流れ、当院における地域医療の役割を踏まえ、「医療から福祉へ良質な橋渡し」となるよう対象者の機能改善と生活の質向上に着手し、取り組んでいきたいと考えます。



## 病院ボランティア講座について

芦屋病院では沢山の方々のご協力によってボランティア活動が、以前より行われていました。ですが意外に市民の皆さんに知られていない現状があり、病院ボランティア活動への理解を深めて頂くべく、講座を開催する事となりました。

ご参加いただいた方々は、現在ボランティアにお越し頂いてる方や初めての方あわせて20名を越え、皆さん熱心にメモを取っておられました。たまたま御手伝いをする機会に恵まれ、当日の各講師の皆さんの講義を聴く事が出来、ご参加下さった方達に「参加してよかった。ありがとう。」と言われこんなにうれしいと思える仕事というのも中々無いものだと思います。新たに4人の方が芦屋病院のボランティアに参加していただけることになり、その方々と院内でお会いできる日を楽しみにしております。



## 秋の公開講座のお知らせ

毎回100人近い市民の方に参加して頂き、大変好評の公開講座の秋の開催内容が決まりましたのでお知らせします。たくさんのご参加をお待ちしております。

場 所：芦屋市民センター401号  
(TEL:0797-35-0700)

受講料：200円

| 開催日       | 内 容          | 講 師  |
|-----------|--------------|--|
| 10月23日(土) | 消化器がんの内視鏡治療  | 市立芦屋病院<br>内科医師 竹田 晃                          |
| 11月6日(土)  | 肺炎とリハビリテーション | 兵庫医療大学<br>教授 野崎 園子氏<br>市立芦屋病院<br>言語聴覚士 今井 教仁 |
| 12月4日(土)  | 貧血について       | 市立芦屋病院<br>内科医師 松梨 達郎<br>管理栄養士 澤田 かおる         |

# 10月

## 院内の催し各教室のご案内



芦屋病院

### マチナーコンサート

テーマ  
「本当の癒しの音楽」

日時：10月24日(日) 午後2時30分～午後3時30分  
場所：外来棟5階 待合ホール 黄色いピアノ前  
出演：ISSIN(飯沼ゆうき、飯沼藍子)

### 糖尿病教室

テーマ  
糖尿病と食事療法2 ～外食とアルコール～

日時：10月8日(金)午後1時～3時  
場所：南病棟1階講義室  
問い合わせ：市立芦屋病院 栄養科

### 市民ギャラリー

テーマ  
垣見 淮芳 水墨画展

日時：10月1日(金)～10月31日(日)  
場所：5階渡り廊下展示ギャラリー



### 両親教室

テーマ  
お産の経過・あかちゃんのお風呂

日時：10月9日(土) 午前10時～12時  
場所：南病棟1階講義室  
対象：妊娠22週以降の妊婦さんとパートナー(5組10名)  
問い合わせ：市立芦屋病院 産婦人科外来(電話は13時以降)



## がんフォーラム2010 ～ここまで出来ます!消化器がんの診断と治療～

日 時 平成23年1月22日(土)

場 所 芦屋市民センター ルナ・ホール

昨年に引き続き今年度もがんをテーマに講演会を開催致します。

今年のテーマは消化器がんについてです。

ぜひ皆さんご参加ください。詳細については次号にてお知らせします!

# 事業管理者のつぶやき

市立芦屋病院 事業管理者 佐治 文隆

## ◆ 建築家のタマゴ ◆

某女子大学建築学科の設計演習発表会に、外部講師として招かれる機会がありました。課題が「病院設計」ということで、医療関係者の立場からのコメントを求められました。芦屋病院がまさに建て替え新築の最中にあるこの時期、若者の病院に持つイメージを知るためにも、良いチャンスと思って応じました。課題は、西宮市今津港に面する敷地の老人福祉施設に隣接した土地に、小規模病院を設計する設定です。海辺ではありませんが、和風園や聖徳園など老人施設に隣接する芦屋病院にとっても興味もたれる立地条件です。

発表は4年次の学生一人ずつが、それぞれの作品について、そのコンセプト、外観バース、設計図について説明し、教授や講師あるいは他の学生からの質問を受けるスタイルで行われました。私は中間発表と最終回の発表に参加しましたが、最終回では完成模型も展示され、本格的なものでした。それぞれの作品は学生の個性がよく現れていて、楽しく拝聴しました。制作にあたっては事前に病院見学などでよく勉強したこともうかがわれました。もっとも医療については門外漢ですから、私の目から見れば問題点もあるわけで、個々にコメントを述べました。学生たちが期待する病院はやはり「癒し」の場で、そのための屋外庭園、カフェ、患者ライブラリーなどの取り入れが目立ちました。入院経験のある学生たちは、「病院は退屈なので、もっと動き回れるスペースが必要」と口をそろえて言います。実際には高齢者が大半を占める当院などでは、あまり聞かれない意見です。「霊安室が暗くて陰気だったから、うんと明るい設計にしてみた」という学生は、病院で親族が亡くなった経験者なのでしょう。新病院に活かしたいアイデアと感じました。

講習会で、私からは「診療機能や動線を考えた立体的な設計」「適正な看護単位を考慮した病室配置」「患者だけでなく職員満足度も向上させる設計思想」などを要望しました。もう一人の外部講師の大手建設会社プロポーザル本部長は、さすがにプロの建築家らしく、建築構造上の問題点など専門家の視点でコメントしたうえで、「医療施設であっても日常通り快適な生活をおくることの重要性」「増築の可能性を考えた計画」などをアドバイスされました。最終講習会での発表では、中間講習の時に比べて格段の進歩が見られ、中には舌をまくような素晴らしい出来映えのデザインをもつ作品も提示されました。

講習を終えるにあたって、私から建築家のタマゴたちにお願いしました。人生には、「したいこと」「しないといけないこと」「してはいけないこと」の三つがあります。いま、若いあなた方は「したいこと」は何でもどん欲にチャレンジしてください。いったんプロの建築家になった以上は、今度はクライアントに好き嫌いを言わずに「しないといけないこと」があるはず。しかし、建築の法律に背くような設計や顧客の利益を損なうような施工は決して「してはならないこと」です、と。

何事においても、「Will (意志)」は「Skill (技術)」を上回ります。技能の研鑽を積むことは大切ですが、それを生かすも殺すも強い意志の持ち方ひとつでしょう。私たちの職場にも通じます。

事業管理者のつぶやきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧下さい。

### 患者満足度調査にご協力頂き有難うございました

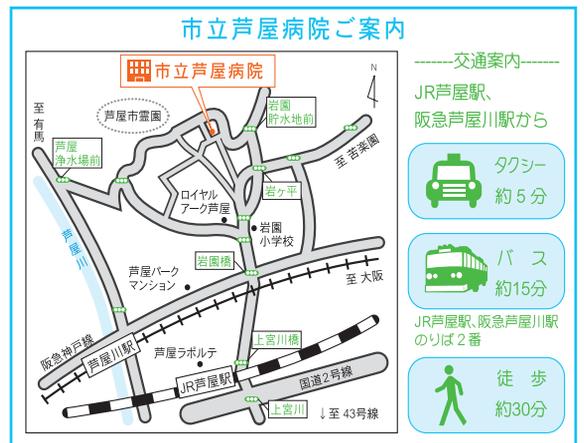


市立芦屋病院では9月13日から約2週間、外来・入院患者さん向けに患者満足度調査を行いました。多項目にわたるアンケートにご協力頂き、有難うございました。この調査は集計を行い今後の病院運営に生かしてまいります。

また、病院へのご意見などありましたら外来、各病棟に『意見用紙』を設けておりますのでそちらへご記入ください。

<http://www.ashiya-hosp.com>

市立芦屋病院についてのさらに詳しい情報については、ホームページをご覧ください。



市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1  
 TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822  
 ホームページ <http://www.ashiya-hosp.com>